

## 県民協働型自然共生手づくり事業

### 「体験発表会」

☆ 日 時：平成22年3月14日（日） 10：30～15：30

☆ 場 所：山口県セミナーパーク 研修室103

☆ 参加者：96人

☆ 主 催：山口県・財団法人山口県ひとつづくり財団

#### 1 スケジュール

10：00 受付

10：30～10：35 開会

10：35～12：00 講演『こどもたちにとっての身近な自然とは』

盛口 満 氏

(フリーライター・イラストレーター・沖縄大学准教授)

13：00～15：10 体験発表会（10分×7団体）

1 松尾峠周辺の自然環境（遊歩道）の再生と保全

(岩国往来まちづくり協議会)

2 セツブンソウの自生地保存活動 (錦川観光協会)

3 大内塗ふるさとの森整備事業

(大内塗ふるさとの森づくりの会)

4 宇部市ヒメマイトトンボ生息地保全活動

(山口むしの会)

5 竜王山の植物等保全事業

(本山会)

6 江舟岳のホンシャクナゲ群生地の整備

(北浦自然観察会)

7 モリアオガエル、ニホンヒキガエルの産卵池づくり

(秋吉台エコ倶楽部)

15：10～15：25 質疑応答

15：25～15：30 閉会

## 2 内容

### 講演『子どもたちにとっての身近な自然とは』

講師 盛口氏が自身の仕事の中で関わる大学生や小・中・高校生と大人達との自然観の違いや、骨等の実物標本を用いて講座参加者へのアプローチの方法等を講演されました。

#### ○ 盛口先生の講演から

沖縄の高校生に沖縄の生き物を質問すると『イリオモテヤマネコ、マングース、ハブ、ヤンバルクイナ』等が揚がった。また、講演参加者も高校生と同じような答えが返る。しかし、沖縄でも小・中学生の生き物の認識は、犬・ねこ・ゴキブリ・ハト・草だ。子供達の生き物に対する認識はそのようなもので、これは今の子供達の現状が自然環境と断絶しても生きていけるからだと思われる。



盛口氏は、大学とフリースクール「珊瑚舎スコール」と夜間中学校、依頼を受けて小・中学校等で教鞭をとられている。フリースクールは不登校の若者が通う場所で、夜間中学校は戦争等で学ぶ機会を逃した高齢者が学ぶ場所だ。夜間中学生は、自然に関する授業内容が生活体験と結びつくので「ああ〜」と反応が返る。一方、フリースクールの方は、「へえ〜」と反応する。「へえ〜」を「ああ〜」にするために生活体験をさせたいと考える時、子供達の少ない体験を活かすことが大切だと考えた。そこで、授業で自然体験づくりをした。珊瑚舎スコールでは、週1回山の中の作業を実施する。これは、昔の山の施設を復元しようとするもので、里山を再生する活動となるが、これも3〜4年をかけての活動となる。



沖縄にはドングリがないにも関わらず、子供達に「ドングリが好きな動物は？」の質問に「リス」と答える。メディアに乗ってくる生き物はイメージができる。

まじないにかかっているものもある。例えば、テレビのコマーシャルで「ゴキブリ」を見たら「キャー」と言う場面を繰り返し見ていることで、実生活でもゴキブリを見ると「キャー」と言ってしまう。

こうしてみると、私達の身近な自然とは、距離が近いものとイメージとしてのものがある。イメージとしての身近な自然は、昔話やキャラクターになっているもの、コマーシャル映像等に影響を受けていることが多い。例えば、タヌキは丸っこい顔・体のイメージだが、実際にはタヌキの顔の骨格は鼻の部分が少し長い。この骨を見た小学生に説明を加えてタヌキの顔だと話すと「ああ〜」となる。タヌキは身近な自然であるということだ。

(骨格標本からビーバー、タヌキ等を見せる)

自然はあるがそれを見る力があるかは、自分自身にかかっている。

例えば、骨では、年月が経っていれば黒くなるし、ほ乳類の歯であれば単一ではなく犬歯や臼歯などのようにいろんな形がある。

(骨に関するクイズを出す・・・ニワトリの手の骨の数は？等～手羽先を食べたことがあれば判るはずなのですが。)

子供達は自然に対してリアルに出会いたいと思っているのではないかと考えた。

子供達にとっての自然の認識の『草』、その中で身近なものは野菜だと思うが、大学生でもキャベツとレタスの違いが分からない子もいた。自然を意識させるため、加工された食品

の原材料は、どのような植物等が使用されているかを調べるところから始めた。このようにしていくと、都会でも発見できる自然はあると思う。

子供達が身近に感じる自然からアプローチをすることで、周りの自然を意識して観察するようになった。骨を見せることも、フライドチキンを組み立ててニワトリの一部を再現することも、子供が興味のあるものからアプローチしていくためのものになる。

## 【体験発表】

自然環境に配慮した行動がとれる県民を育てることを目的として「自然保護」「自然環境の保全」「自然再生」等のフィールド整備に併せた体験型環境学習講座をセンターと協働で実施した団体の活動を発表する場として開催しました。

### 1 松尾峠周辺の自然環境（遊歩道）の再生と保全（岩国往来まちづくり協議会）

古道岩国往来が通っていた松尾峠周辺の整備を行った。整備内容は、案内板やベンチ、階段の設置や草刈、投棄ゴミの撤去等の実施で、整備箇所周辺の自治会やボーイスカウト等の協力が得られたことで、今後の整備に関しても地元自治会の皆さんの協力を得られることになっている。また、整備記念ウォークでは約150人の参加があり、古道の自然を味わってもらった。こちらのウォークも今後も継続していく予定である。



### 2 セツブンソウ自生地保存活動（錦川観光協会）

セツブンソウを保護するため、自生地の草刈と保護柵の設置を実施した。セツブンソウ自生地の南限は、広島県総領町と言われているが、岩国市に自生しているのを見つけた。公開か非公開か迷ったが、セツブンソウの保存会を立ち上げ、保護をしながら街の活性化に一役かってもらうことにした。今後も草刈等の整備をしながらセツブンソウの保存をしていく。



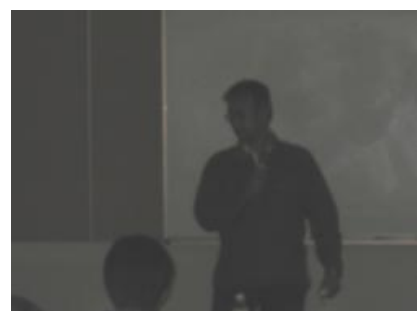
### 3 大内塗ふるさとの森整備事業（大内塗ふるさとの森づくりの会）

「大内塗の原木エゴノキが手に入らない」からエゴノキを植樹する事業が始まった。今回は、山口市宮野上の自生地の草刈と看板設置、ストラップづくりを行った。森を整備することで里山を守り、自然・水を守ることに繋がっていると思っている。今後もこの作業を続け、自然環境と大内塗の文化を守りたい。



### 4 宇部ヒヌマイトトンボ生息地保全活動（山口むしの会）

環境省絶滅危惧種に指定されているヒヌマイトトンボの生息する地が工事対象地域になったため、代替地が建設された。この場所のヒヌマイトトンボ保全活動を目的に、清掃活動・草刈等を実施し、参加者を対象に観察会も実施しヒヌマイトトンボと他の生き物、環境との関わり等を説明した。今後も、代替地の保全



活動や観察会を実施し自然環境を守ることの意義や大切さを啓発していきたいと考えている。

## 5 竜王山の植物等保全事業（本山会）

モリアザミや他の群生地を明示して群落を保全、草刈等の清掃活動を地元の小学生も交えて実施した。また、山の学校と題して観察会や学習会を小学生や保育園児等を実施した。

小学生には、手作りの紙芝居等でも地域の自然を発信している。

今後も自然環境の保全を実施する。また竜王山の特性を活かした自然の体験学習や環境学習や、幼稚園児等の自然体験学習も行う予定だ。



## 6 江舟岳のホンシヤクナゲの群生地の整備（北浦自然観察会）

江舟岳200m南東の小さなピークから北東に延びる尾根の約500本のシヤクナゲ群生地の間伐、看板設置作業を実施した。以前は里山として炭焼きの木をとっていた場所が利用されなくなり、アカガシやソヨゴ等の雑木が大きくなり、背の低いホンシヤクナゲには日が当たらず衰退していくばかりと考え、群生地の整備を行うこととした。

今後も様子を見ながら整備をし、多くの人達がホンシヤクナゲを観察できる場所にしたいと思っている。



## 7 モリアオガエル、ニホンヒキガエルの産卵池づくり

山口県の絶滅危惧種に掲載されているモリアオガエル、ニホンヒキガエルが産卵できる池を造り、ニホンヒキガエルの卵の救出作戦を実施した。

秋吉台は透水性がよいので、産卵場所が限られている。その産卵場所が、子供達が遊ぶための池で定期的な水が抜かれ清掃される場所や水の枯れる川等も含まれている。この状態をなんとかしたいとの思いで今回の事業を実施することにした。作業には、子供達も参加してくれた。また、卵の救出作戦では新たに造った池に入れる卵と、自宅で育てカエルになったら池に放しにくる里親制を実施した。

今後、モリアオガエルの産卵時期に観察会と救出作戦を実施する予定だ。



体験発表会の内容は、団体の方はよくまとめられていて参加者にわかりやすいものでした。発表団体の方々は、それぞれ地域に根ざした活動をされており、今回の整備箇所で行うさまざまな自然とふれあう活動に多くのみなさんが参加されることを願っています。

講師の講評も景観、文化、象徴、歴史、現在、未来と自然界の多様性について触れられ、それぞれの団体が地域を愛していることを読み取られたもので、最後まで充実した会でした。